

宣教にかけるアメリカのこころ

愛知教育大学附属高等学校
中尾 幸

1 はじめに

今回のアメリカ研修でどこが印象に残っていますかと問われたら、「どこもここもそれぞれに・・・」と答える前に「ローマの休日」のアン王女になった気分で、"Minnesota! By all means, Minnesota!"（何と云ってもミネソタよ）と叫んでいる。それはミネソタ州セントポールで出会った人々に強い衝撃を受けたからである。その結果、今私の机の上には"Letters from the fields 1925-1975"（マーガレット・ミード著）と「死の病原体プリオン」(草思社)の2冊が置かれている。アメリカへ行ってなぜニューギニアのフィールドワークと狂牛病なのか。それはミネソタで3泊4日のホームステイをさせていただいたジョンさんとベティさんのおかげである。

今回の研修で私は長い間気になりながらなかなか取り組みにくかったテーマである宗教を取り上げた。出発前にある県立高校に勤める友人から聞いた話が心に引っ掛かっていたからである。それはあるクラスで女子生徒が気分が悪くなって倒れてしまった時に、まわりにいた大勢の生徒のうち2人の生徒だけで彼女を保健室まで運んでくれたというのだ。その2人の生徒というのは留学生であった。日本人の生徒は動けなかった。すばやく行動したのはその高校に2人しかいないアメリカとアイルランドからの留学生であった。困っている人を助ける使命感を支えているのは何であろうか。

また、20年ほど前に初めてアイオワ州のシンプソン大学へ行った時、今も記憶に残っている2つの質問。1つは「日本の人々はアメリカが広島に原子爆弾を落としたことをどう思っていますか。今でも憎んでいますか。」という質問。そしてもう1つは、知りあった人の自宅に週末など招待された時、リラックスした雰囲気の中で「あなたの宗教は何ですか」という質問である。初めて"What's your religion?"と聞かれた時は何て答えようか戸惑った。結局、かなり後ろめたい気持ちで"I'm Buddhist."と答えた。自分が仏教徒であると答えるにはかなりの抵抗感を伴った。仏教の教えをきちんと知っている訳でもなく、ましてやそれをちゃんと実行している訳でもない。法事や盆に仏壇の前でナムアマダブツと唱えながら手を合わせる。盆にお墓参りに行く。年に数回仏前にお供えものをするのを手伝う。我が家は浄土親宗であるという事くらいしか知らない。子供の頃お寺の住職さんの話を聞いた記憶もあるがそれも遠い昔である。そのため、名前や住んでいる所や家族のことを聞かれるのと同じレベルで宗教は何かと聞かれたことに戸惑った。しかもこの質問はそれから何回となく繰り返されたのである。アメリカ人はとても宗教にこだわる人々だと感じた。

アイオワ州はミネソタ州のすぐ南に位置している州で2つとも中西部（Midwest）にはいる。両州とも農業州でとうもろこしや大豆の生産が中心である。生活も質素である。教会との関わりも共通したものがある。アイオワの農業経営者の人達は毎週日曜日になると一家で教会に出かける。シンプソン大学自体もプロテスタントのUnited Methodist Churchが設立した大学で、大学内の敷地にはりっぱな赤レンガの教会がある。また冬休みには寮が閉まってしまったので、友人の家に宿泊させてもらった。彼女の父親は教会の牧師であり、クリスマスは一大行事であった。友人の妹さんはその年キリスト生誕劇のマリア役を努め話題になっていた。私もいっしょに教会へ連れていってもらい礼拝